

# Future Challenge Project 2023

～プロスポーツ発！誰もが共に暮らし続けられるまちづくりを目指し挑戦する活動～

団体名 ● 地域スポーツマネジメントゼミナール、同 新谷ゼミナール、スポーツ学科フィールド基礎演習  
代表者名 ● 西村貴之（人間科学部スポーツ学科・教授）

## はじめに(背景・目的・目標)

日本プロサッカーリーグ(Jリーグ)は社会課題や共通のテーマ(教育、ダイバーシティ、まちづくり、健康、世代間交流など)に地域住民、企業や団体、自治体、学校などとJクラブが連携して取り組む活動(Jリーグ社会連携活動(通称「シャレン!」))を推進している。本学スポーツ学科では、石川県をホームタウンとするJクラブ「ツエーゲン金沢」及び多数のステークホルダーとの協働により、2020年度より「シャレン!」の取組みに参画している。

2023年度は、サッカーを通じ、障害のあるなしに関わらず誰もが共に暮らし続けられるまちづくりを目指し挑戦する活動「Future Challenge Project2023」の実行委員会メンバーとして、地域スポーツマネジメントゼミナール、新谷ゼミナールが参画した。2021年度から改善を重ね継続してきている「視覚障害者向けのサッカー観戦会」を中核的な取組みとしながら、主催者、視覚障害者、サポーターの3者がさらなる挑戦をすることで、相互理解を深め、「お互い様があふれるまちづくり」を目指すこととした。

## 活動内容

日程：2023年11月4日(土)明治安田生命 J2リーグ  
第41節 vs 大分トリニータ戦

場所：石川県西部緑地公園陸上競技場

参加：参加視覚障害者11名、本学学生22名

実行委員会メンバー/協力者15名

来場観戦者数3,413名

- 内容：①視覚障害者の方向けサッカー観戦会  
② PlatCast での実況・解説サービス配信  
③ 応援/啓発グッズ(ハリセン)プレゼント  
④ ブラインドスポーツ体験会  
⑤ 視覚障害体験・啓発ブース  
⑥ 全盲のシンガーソングライターのライブ  
⑦ 障害者によるフェアプレーフラッグ掲出

以上の企画に関して、プロジェクト担当学生3名が実行委員会メンバーとして参画し、それ以外の学生はイベント当日の視覚障害者の介添えや運営サポートスタッフとして参加した。



試合観戦会の様子（学生による介添え）

## 成果、結果の考察

企画後の学生アンケート結果からは、視覚障害者への印象が「(目が見えなくて)かわいそう、大変そう」から「視覚障害=個性」という考え方に変わったという声があった。スタジアム来場者からは、「親子で観戦したことで子どもと視覚障害のことについて話すきっかけとなった」という意見があった。本プロジェクトが多方面に向けて、視覚障害について深く考えるきっかけとなっていることを成果として感じている。

## 今後の課題、展望

イベントに参加する視覚障害者の数が伸び悩んでいることから、視覚障害者における「情報障害」が想像以上に高いハードルであると感じている。ネットやSNSでいくら拡散しても届けたい人に情報が届かない。今回、ブラインドスポーツ体験会の講師をブラインドランニングサークルに依頼したことで、サークルメンバーである視覚障害者のイベント参加に繋がった。こうした組織的な連携や関わりを増やし、「口コミ」が可能なコミュニティを地道に構築していくことの必要性を感じている。